

令和元年第12回大川市教育委員会（定例会）会議録

令和元年8月27日、大川市役所第2委員会室において、令和元年第12回教育委員会（定例会）を開催した。出席者及び会議の経過並びに結果は次のとおりである。

1. 開会及び閉会に関する事項

開会 15時00分

閉会 16時15分

2. 出席委員の氏名

教育長 記伊 哲也

委員 谷川 朋昭

委員 一ノ瀬直子

委員 蔵本美保子

委員 恵崎 浩則

3. 欠席委員

なし

4. 事務局等の出席者

学校教育課長 石橋 正隆

学校教育課主幹 古賀美保理

生涯学習課長 岡 辰磨

学校教育課長補佐 山口 馨

生涯学習課長補佐 岡 美詠子

記録者・学校教育課総務係 永島 潤一

5. 傍聴者

なし

6. 付議案件

審議事項

- (1) 議案第22号 令和元年度大川市教育委員会感謝状贈呈候補者について

報告事項

- (1) 臨時職員等の任用について
- (2) 令和元年度全国学力・学習状況調査について

7. 教育長の挨拶の要旨

- (1) 夏の中体連大会について

今年は2校の生徒が全国大会に出場した。1名は大川中学校3年生の生徒で、陸上100m走で出場。また、大川南中学校の弓道部が全国大会に出場し、男子団体に準優勝をした。大川南中学校が全国大会で準優勝したのは初の快挙である。また、型が綺麗だったということで最優秀団体技能賞も受賞した。

- (2) 全国学力・学習状況調査について

市内小学校平均は全国平均より高く、市内中学校平均は全国平均より少し低いという結果

で、おおむね予想したとおりであった。小学校のときに学力が低かった学校は、中学校でも低い傾向にあるが、小学校では学力が低いが中学校では上がった学校もあり、その点については成果である。きちんと要因を分析して今後につなげていく。

8. 議事の概要

審議事項	(1) 議案第22号 令和元年度大川市教育委員会感謝状贈呈候補者について
委員	現時点では感謝状贈呈候補者にあがっていないが、木室小学校のおやじの会を推薦したい。今からでも日程的には可能か。
事務局	感謝状贈呈の基準を満たしているか審査が必要であるが、次回の定例会までに木室小学校の校長から内申があれば日程としては可能である。
《採決》 全員挙手により原案のとおり承認	
報告事項	(1) 臨時職員等の任用について
質問・意見等なし	
報告事項	(2) 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果について
委員	<p>小学校の英語に対する関心が高いという点はとても良い。英語での指導に力を入れている成果が出ているのだと感じる。</p> <p>一方で、ICT・プログラミングを活用したいと思う子どもの割合が全国平均より低いのは、市がそこに力を入れておらず、子どもがそれらに触れる機会が少ないからではないだろうか。今後こういった取組をしていくのか。</p>
事務局	<p>まず、ICT環境の整備については、小学校に今年度9月からタブレットを導入する。また、校外でも使用ができるようにモバイルルーターも併せて整備をする。そういったことにより、子どもがICTに触れる機会を増やしていく。</p> <p>また、プログラミング学習に向けても、今年度9月から1校をモデル校としてロボット型のプログラミング教材を導入して、そこで調査・研究を行っていく。</p>
委員	<p>図書館を利用する児童の割合が全国・県平均よりもかなり高いことについては、市立図書館の働きかけが大きいのではないかと感じた。</p> <p>一方で、朝食を摂る子どもの割合が全国平均と比べて4.5%低いことについてだが、このことが直接成績に影響するということがデータでも示されている。朝食を摂る子どもが増えたら成績の向上にもつながるのではないか。また、子どもの時期に習慣化しておくことが大人になったときにもつながってくると思うので、家庭全体で取り組むように働きかけをしてほしい。</p>
事務局	<p>来月PTA研修会に伺う際に、今回のデータをわかりやすくして提示し、朝食が成績向上や心の安定につながっていくということや、朝食の大事さを伝える予定である。今後もそういった機会に積極的に朝食の大事さを伝え、保護者に対する意識付けを行っていく。</p>

教育長	朝食の摂取率や自尊感情等の調査と成績の推移を経年で比較すると、成績との相関関係が見えてくるのではないか。そのほうが保護者に対してもより説得力のある説明ができる。
委員	小・中学校ともに、全学校の平均は概ね全国平均程度であるが、個別で見ると、学校間格差がかなりあり、特に中学校においては顕著である。 また、部活動等が要因になっているかもしれないが、中学校は家庭学習の時間も小学校よりも少ない。なぜこのような結果になっているのか。
事務局	家庭学習を何時間しているかについても成績同様、学校間で格差がある。これからそれぞれの学校でこの結果について分析をしていく。
教育長	スマートフォン等のチェックリストへの対応はどうか。
事務局	6月の結果はそこまで悪くはなかった。浸透しつつあるとは感じるが、まだ十分ではない。振り返りカードや保護者からのメッセージを見ると「チャレンジカードがあったことによって意識が変わった」、「親子の会話の大事さを改めて感じた」という声があり、スマートフォンや家庭学習について課題があると保護者も気づいていると感じる。これを機会にこの活動を継続してやっていきたい。
委員	小学校の学力調査で無回答率が低くなってきたということだったが、中学校では逆に無回答率が上がっている。これはなぜなのか。
事務局	小学校のときにできていない子どもは基礎ができていないので、中学校に入って問題が難しくなると更に理解ができなくなる。そのため、問題を解く前に諦めてしまうので、無回答率が高くなっているのだろう。
教育長	文章問題で無回答率が高い。授業や期末・中間考査で表現をするトレーニングができていないため、問題を解く前に諦めてしまっていると推測される。
その他（教育振興プログラム（案）について）	
委員	主要施策と主な取組には同じような内容が書いてあるのだが、この2つはどのような関係性でどのような違いがあるのか。
事務局	ご指摘のとおりで、主要施策と主な取組が重なっている部分がある。主要施策がより大きな項目で、それを受けて特にどのようなことに取り組んでいくかを主な取組であげている。現時点では案の段階なので、もっと詳しく書いた方がいい等の意見をいただければそれを反映していく。
教育長	主な取組の数は現案より少し増える見込みである。しかし、あまりに取組数が多いと個々の焦点化が困難になるので、現行の教育振興プログラムからは減らす方向で調整をしている。